

下地明友先生の業績

研究論文

- 宮川太平、弟子丸元紀、服部英世、鹿井功、下地明友、藤本敏雄、永利憲一：ステロイド剤投与による中枢神経系の微細構造変化。精神薬療基金研究年報、8, 1-5, 1976
- Miyakawa, T., Shiraki, I., Shimoji, A., Kuramoto, R., Nagatoshi, K.: Electron-microscopical study on senile plaques in Alzheimer's disease. *Folia Psychiatri Neurol Jpn*, 33, 197-203, 1979
- Deshimaru, M., Miyakawa, T., Hattori, E., Shikai, I., Shimoji, A., Nagatoshi, K.: The effect of hyperthyroidism induced by thyroid siccum on the central nervous system; an electron microscopic study. *Folia Psychiatri Neurol Jpn*, 33, 517-523, 1979
- 宮川太平、鹿井功、下地明友、倉元涼子、永利憲一：実験的有機水銀中毒：(1) 有機水銀投与量と神経系の組織学的変化、(2) 有機水銀投与による脊髄・延髄の組織所見。水俣病に関する総合的研究：昭和53年度環境庁公害防止等調査研究委託費による報告書、35-36, 1979
- Miyakawa, T., Kuramoto, R., Shimoji, A., Higuchi, Y.: Fine structure of inclusion body in the nucleus of Alzheimer glia type II in the brain of hepatocerebral degeneration. *Acta Neuropathol (Berl.)*, 56, 315-319, 1982
- Miyakawa, T., Shimoji, A., Kuramoto, R., Higuchi, Y.: The relationship between senile plaques and cerebral blood vessels in Alzheimer's disease and senile dementia. *Virchows Archiv B Cell Pathol*, 40, 121-129, 1982
- 大山繁、下地明友、舩井幸輔、松永哲夫、佐藤真弓、野上玲子：Werner 症候群の脳波：異常と神経症状について。精神医学、24, 1177-1184, 1982
- 宮川太平、宮川洸平、下地明友、桂木正一：Alzheimer 病における大脳皮質病変の電顕による観察。厚生省疾患研究委託費：老年期脳障害の臨床・発生機序治療に関する研究：昭和57年度研究成果報告書、56-62, 1984
- Miyakawa, T., Deshimaru, M., Shimoji, A., Watanabe, K.: The study of muscle spindle in experimental organic mercury poisoning. *Kumamoto Med J*, 38, 27-36, 1985
- Miyakawa, T., Katsuragi, S., Watanabe, K., Shimoji, A., Ikeuchi, Y.: Ultrastructural studies of amyloid fibrils and senile plaques in human brain. *Acta Neuropathol (Berl.)*, 70, 202-208, 1986
- Shimoji, A., Miyakawa, T., Watanabe, K., Yamashita, K., Katsuragi, S., Kabashima K.: Wilson's disease with extensive degeneration of cerebral white matter and cortex. *Jpn J Psychiatry Neurol*, 41, 709-717, 1987
- Shimoji, A., Katsuragi, S., Miyakawa, T., Hira, R., Watanabe, K., Miyakawa, K., Ishitsu, T., Miike, T.: Familial mitochondrial encephalomyopathy with stroke-like episodes and episodic disturbances of consciousness. *Jpn J Psychiatry Neurol*, 41, 47-55, 1987
- 桂木正一、江上昌三、弟子丸元紀、下地明友、渡辺健次郎、山下建昭、宮川太平：結核性髄膜炎・脳幹部結核腫で四肢麻痺、高度の知能障害、視力喪失などの多彩な症状を呈した小児剖検例。九州神経精神医学、33, 192-195, 1987
- Higuchi, Y., Miyakawa, T., Shimoji, A., Katsuragi, S.: Ultrastructural changes of blood vessels in the cerebral cortex in Alzheimer's disease. *Jpn J Psychiatry Neurol*, 41, 283-290, 1987
- 犬飼邦明、宮本憲司朗、下地明友、桂木正一、宮川太平、村山英一、首藤謙二、宮川洸平、藤本敏雄、

- 樺島啓吉、森山茂、続純一、樋口康志、池田英世、穂月清勝、平田耕一：新しい Butyrophenone 系抗精神病薬 Bromperidol の精神分裂病に対する使用経験。新薬と臨床、36, 1321-1331, 1987
- 石津棟瑛、松田一郎、北野昭人、下地明友、木村元：Mitochondrial cytopathy の 1 家系例。臨床神経学、27, 983-989, 1987
- Katsuragi, S., Sakai, T., Watanabe, K., Shimoji, A., Deshimaru, M., Kuramoto, R., Miyamoto, K., Yamashita, K., Miyakawa, T.: An autopsy case of idiopathic superficial hemosiderosis of the central nervous system: a microscopic and immunohistochemical study. *Clin Neuropathol* 7, 87-92, 1988
- 山本和儀、下地明友、真喜屋浩、佐久川廣、高江洲均：宮古島におけるアルコール関連問題。沖縄県医師会医学会雑誌、26, 222-224, 1989
- 譜久島恵津子、池原和子、仲田八重子、池村嘉則、平山栄、玉元正助、嘉納章、上原京子、真喜屋浩、下地明友、仲俣明夫、中村能文、山本和儀：伊良部町デイケア（サシバの会）から地域精神保健活動について考える。沖縄県公衆衛生学会誌、20, 163-166, 1989
- 下地明友、仲俣明夫、村上良慈、池村嘉則：南島のシャマニズムと精神医学との間に立ち表れてくるもの：風土的治療文化論への一試み。精神科治療学誌、5, 1295-1301, 1990
- Shimoji, A.: Interface between shamanism and psychiatry in Miyako islands, Okinawa, Japan: a viewpoint from medical and psychiatric anthology. *Jpn J Psychiatry Neurol*, 45, 767-74, 1991
- 山本和儀、仲本晴男、仲俣明夫、中村能文、下地明友、真喜屋浩、中村恵美子、池村嘉則、盛島幸子、平田晴男、西筋米吉、下地久雄：宮古の一離島における精神障害の実態：精神保健活動の報告と今後の課題。沖縄県公衆衛生学会誌、21, 1991
- 下地明友：シャマニズム的風土における風土的認識モデルと精神医学的認識モデルとの相互作用：臨床人類学的視点。臨床精神医学、21, 1809-1814, 1992
- 下地明友：治療関係の治療文化論的モデル：医療人類学的認識モデルからの視点。精神分裂病研究の進歩、3(1), 111-113, 1992
- 下地明友、宮川太平：精神分裂病の臨床人類学的研究：anthropological psychiatry の視点。精神分裂病研究の進歩、3(2), 101-102, 1993
- 下地明友：風土と臨床：臨床人類学概念装置。こころの臨床ア・ラ・カルト、13（増刊号）、109-112, 1994
- 下地明友：臨床空間の「とき」と「ところ」：風土と精神医学。現代のエスプリ、335, 154-163, 1995
- 坂西信彦、下地明友、宮川太平：てんかん発作、知能障害を呈した Mega Cisterna Magna の 1 症例。臨床精神医学、24, 69-74, 1995
- 本島昭洋、井形朋英、下地明友、杉村謙：電撃療法により短期間に寛解した妄想型うつ病の一例。精神科治療、2, 935-941, 1997
- 坂西信彦、野澤和由、下地明友、宮川太平：多量飲酒・ヘロイン乱用後に白質脳症を呈した 1 例。精神医学、39, 647-649, 1997
- 坂西信彦、下地明友、宮川太平、平田耕一、藤田英介、三村孝一：放火を繰り返し系統的健忘を呈した 1 例。精神医学、39(4), 381-387, 1997
- Shimoji, A., Eguchi, S., Ishizuka, K., Cho, T., Miyakawa, T.: Mediation between the shamanistic model and the psychiatric model in a shamanistic climate: a viewpoint of medical anthropology. *Psychiatry Clin Neurosci*, 52, 581-586, 1998
- 下地明友：物語生成、間物語性、臨床の零度。文化のこころ、2, 46-50, 1998
- 下地明友：薬物性脳症状群：特に向精神薬による「軽い意識障害」と「パラドックス反応」などの中枢神経障害について。医薬ジャーナル、35, 113-117, 1999

- Shimoji, A., Miyakawa, T.: Culture-bound syndrome and the culturally sensitive approach: from a viewpoint of medical anthropology. *Psychiatry Clin Neurosci*, 54, 461-466, 2000
- 下地明友、北村俊則：アメリカにおける特定集団に対する精神医学の対応に関する文献的研究。厚生科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）人間関係の希薄化がもたらした精神保健問題に関する研究。平成13年度総括・分担研究報告書、32-33, 2002
- 下地明友：文化と伝統療法－医療人類学的視点から－（特集 文化と精神療法）。こころと文化、1, 168-176, 2002
- 下地明友：風土と老人観－医療人類学的視点から－（特集 多文化における老いと老人問題）。老年精神医学雑誌、13, 502-507, 2002
- 下地明友：多元性・多声性・新体制－文化と生物学の架橋に向けて－。臨床精神医学、31, 623-628, 2002
- 原田正純、下地明友：沖縄における精神医療の歴史と現状（沖縄調査研究特別寄稿）。社会福祉研究所報、32, 167-208, 2004
- 下地明友、原田正純：沖縄の医介輔の歴史と語りから見えてくるもの：ライフ・ヒストリーと語り（narrative）－地域医療と沖縄の医介輔・中級医療職－（沖縄調査研究特別寄稿）。社会福祉研究所報、32, 209-227, 2004
- 池田光穂、田口宏昭、林田泰子、嶋津恭子、下地明友：ストレス理論の使われ方：その医学的概念の歴史的社会構築。熊本文化人類学、4, 99-101, 2005
- 江口重幸、下地明友：統合失調症とその社会的・文化的コンテクスト。精神医学研究所業績集、43, 30-34, 2006
- 江口重幸、下地明友：統合失調症とその社会的・文化的コンテクスト（特集1 統合失調症解明へのアプローチ）。精神科、8(4), 294-299, 2006
- 下地明友：「多元的医療体系」－医療のクレオール化・〈臨床の「詩学」〉－近代医療と「非」近代医療の「あいだ」の「ホット・スポット」（2007年度【熊本学園大学附属社会福祉研究所】公開研究会記録）。社会福祉研究所報、36, 125-155, 2008
- 下地明友：プロジェクト1 水俣病被害の現状と再評価に関する健康・社会問題の調査研究「水俣病」研究の方法論再考－医学的思考の新たなパラダイム転換（シンポジウム 水俣の未来へ～水俣学研究5年のあゆみ）。水俣学研究、2, 23-30, 2010
- 原田正純、下地明友、田尻雅美、井上ゆかり、藤野礼、川上義信、高岡滋、池田龍巳、板井八重子、岩田勘司、大石史弘、門佑輔、樺島啓吉、酒井保之、塩川哲男、鈴木健世、荒木重夫、田中久、戸倉直美、三宅徹也、元倉福雄：不知火海沿岸住民の有機水銀の影響に関する研究、不知火海沿岸住民の健康調査報告。水俣学研究、2, 61-86, 2010
- 岡本洋子、下地明友、坂本香織、吉田拓郎、瀧澤透、渡邊直樹：自殺予防に関連する心身の健康への意識についての住民調査－熊本県あさぎり町における「こころとからだの健康づくりに関する調査」から。こころの健康、25(2), 75-87, 2010
- 下地明友：レジリエンス・病い・文化－レジリエンスの医療人類学（特集 レジリエンスの文化）。こころと文化、10(1), 12-19, 2011
- 下地明友：戦争・境界の軌跡・臨床の詩学－精神医学と医療人類学との遭遇－。こころと文化、10(2), 143-150, 2011
- 下地明友：精神医療における「リカバリー」を再考する。精神科看護、10, 10-19, 2012
- 下地明友：ソーシャル・サファリング（Social suffering）：熊本県と社会精神医学の系譜－「構造の裂け目」と「存在の現れ」－覚醒剤中毒、CO中毒、水俣病、カネミ油症、慢性砒素中毒そして・・・「終わっていない」。日本社会精神医学会雑誌、22(3), 266-273, 2013

- 下地明友：文化精神医学と風土・民族・宗教：リスク・文化・語り／位相論的視点から。最新精神医学、18(6), 571-578, 2013
- 下地明友：「ほどほど」とは何なのか。パネルディスカッション いのちをつなぐ：今私たちにできることは（花田昌宣編：いのちをつなぐ、東北、熊本～3.11以降の福祉と環境を考える 2012年6月福祉環境学フォーラム記録）。社会関係研究、19(2), 121-124, 2014
- 下地明友：宗教世界と精神医学世界の出会いの場所ーポリダイアログ・語りの奪回・根源的出会いー（テーマセッション1 「民衆宗教」研究の新展開(3)ー「民衆宗教」と精神医学／治療文化ー）。宗教と社会、20, 132-133, 2014
- 下地明友：「臨床という場所のパラ・イメージ論」という物語。九州神経精神医学、61(1), 23-29, 2015
- Hanada Masanori, Shimoji Akitomo, Nakachi Shigeharu, Tajiri Masami, Inoue Yukari, Tsuruta Kazuhito, Yagi Kazuhiro, Noji Nanae, Itai Yohei, Morishita Naoki, Sato Hideki, Sato Suemi, Makiguchi Toshitaka, Kamakura Takanobu, Yamanouchi Etsuko, Aitkenhead Thor: 2014 Report on Research Results for Minamata Disease in First Nations Groups in Canada. 水俣学研究、7, 19-34, 2016
- 下地明友：災害とこころのケア～熊本地震の経験から～、精神衛生、69, 1-18, 2017
- 下地明友：不思議の場所、それは多文化間精神医学ー臨床の位相は徴候的な場所であるー、こころと文化、17(1), 67-70, 2018

論説・エッセイ・書評等

- 下地明友：「日本精神病理学会第17回大会」印象記。精神医学、37, 106-107, 1995
- 下地明友：第12回多文化間精神医学会印象記 多文化共存共生の条件。こころと文化、4(2), 135-137, 2005
- 下地明友：三池 CO 中毒と高次脳機能障害。三池高次脳機能連絡会議「第3回シンポジウム：高次脳機能障害」5-6, 2009
- 下地明友：被災者の心のケアをどうするのか（特別企画 原子力発電所）。水俣学通信、24, 3, 2011-06
- 下地明友：戦争・境界の軌跡ー臨床の詩学ー精神医学と医療人類学との遭遇（特集 私はなぜ多文化間精神医学者になったか?）。こころと文化、10(2), 143-150, 2011
- 下地明友：三池 CO 中毒と高次脳機能障害。三池高次脳機能連絡会議「第4回シンポジウム：高次脳機能障害」7-8, 2011
- 下地明友：カストロフィの視点から「福祉」を見直す。イルカ通信、20, 2011
- 下地明友：原田正純 その多様な世界…その一端を垣間見る。総合文化誌 KUMAMOTO、1, 174-178, 2012
- 下地明友：原田正純 その多様な世界：後世へのメッセージ。熊本大学医学部神経精神科学教室だより、10-11, 2012
- 下地明友：「自死を減らす」から「いのちを守る」へ：世界、日本、そして熊本：熊本の地道なあゆみから。熊本・生と死を考える会会報、6-9, 2012
- 下地明友：原田正純の軌跡と近代化の交差：メッセージを聞く。熊杏、58, 71-73, 2013
- 下地明友：豊かさをめぐる光と影：こころ・からだ・生命。平成25年度熊本学園大学春季公開講座、18-19, 2013
- 下地明友：読書ノート 砒素汚染地を巡る半世紀に及ぶ旅：人類と元素を再考する【堀田宣之著『砒地巡歴』】。総合文化誌 KUMAMOTO、5, 156-160, 2013
- 下地明友：東北タイ・ルーイ県のナ・ノン・ボン村を訪れてー鉱山開発と健康ー。水俣学通信、35, 4,

2014

下地明友：健康・医療・福祉相談室から水俣病を考える。水俣学通信、41, 5, 2015

下地明友：医療福祉チームとその課題～震災直撃後の数日の経験から。水俣学通信、45, 3, 2016

下地明友：原田正純先生は水俣病をどのように捉えていたのかー旅人としての原田正純先生ー。水俣学通信、47, 7, 2017

下地明友：カナダ先住民の水銀汚染とレジリエンス。水俣学通信、48, 3, 2017

下地明友：災害とこころのケア～熊本地震の経験から～、精神衛生、69, 1-18, 2017

下地明友：不思議の場所、それは多文化間精神医学ー臨床の位相は徴候的な場所であるー、こころと文化 17(1), 67-70, 2018

熊本日日新聞（夕刊） うつろい考シリーズ

1 他者に語る病いー苦悩を癒しに変える知恵 1996年6月26日

2 痛みの世界ー個の体験の共有が癒しに 1996年10月23日

3 距離の力学ージレンマ消化する「キノコ」 1997年3月26日

調査報告

下地明友、北村俊則：アメリカにおける特定集団に対する精神医学の対応に関する文献的研究。厚生科学研究費補助金（障害保健福祉総合研究事業）人間関係の希薄化がもたらした精神保健問題に関する研究。平成13年度総括・分担研究報告書、32-33、2002

あさぎり町「こころとからだの健康づくりに関する調査」（報告書）2008（平成20）年

あさぎり町「平成20年度地域自殺対策事業地域戦略（モデル地域あさぎり町）」（報告書）2009（平成21）年

あさぎり町「うつ病予防のための地域介入プログラム」（報告書）2010（平成22）年

上天草「こころとからだの健康に関する調査」（報告書）2010（平成22）年

小国町「小国町における睡眠をテーマとした心の健康に関する啓発及び実態調査」（報告書）2012（平成24）年

著書

下地明友：風土的視点と精神科臨床：「臨床場」の問題。高畑直彦、三田俊夫編『多文化間精神医学』（臨床精神医学講座第23巻）、中山書店、東京、pp.377-390、1998

酒井明夫、下地明友、宮西明夫、江口重幸（編）：文化精神医学序説。金剛出版、250p、2001

下地明友：世に棲む老人の臨床人類学ー〈共にある身体〉あるいは〈関係性の詩学〉の人類学にむけてー。二塚信、嵯峨忠編著『高齢社会ーどう変わる、どう生きる（熊本大学高齢社会総合研究プロジェクト）』九州大学出版会、pp.147-167、340p、2003

松下正明、中谷陽二、加藤敏、大野裕、神庭重信（編）『精神医学文献辞典』弘文堂、606p、2003（p.452, p.527, p.528）

下地明友：アモク：間欠性爆発性障害および‘多重決定要因モデル’の視点から。別冊日本臨床 領域別症候群シリーズ38『精神医学症候群Ⅰ』、日本臨床社、pp.140-143、2003

下地明友：アルコール性パラノイア。別冊日本臨床40『精神医学症候群Ⅲ』、日本臨床社、pp.448-453、2003

下地明友：「なぜ女性にうつ病が多いのか」という問いをめぐってー比較歴史・文化論的視点から。神庭重信編『これだけは知っておきたい女性とうつ病：サインを見逃さないために』、医薬ジャー

- ナル社、pp.53-69、2008
- 下地明友：多文化間精神医療、松下正明、他編『精神医学キーワード事典』中山書店、816p、2011 (pp.421-423)
- 下地明友：精神医学概念はあらゆる社会においても普遍妥当性をもつのかー「普遍性」の考古学：科学的事実と臨床的リアリティ。神庭重信・松下正明編『専門医のための精神科臨床リュミエール 30 精神医学の思想』中山書店、pp.51-63、2012
- 下地明友：レジリエンス・病い・文化ーレジリエンスの医療人類学。加藤敏編著『レジリエンス・文化・創造』金原出版、pp.2-15、2012
- 下地明友：「受苦せしものは学びたり」 熊本大学医学部、そして熊本学園大学へ。熊本学園大学水俣学研究センター・熊本日日新聞社編著『原田正純追悼集 この道を一水俣から』熊本日日新聞社、pp.438-442、2012
- 下地明友：「ほどほど」とは何なのか、いのちをつなぐー今私たちにできることは。花田昌宣・中地重晴編『いのちをつなぐー水俣、福島、東北（水俣学ブックレット13）』熊本日日新聞社、pp.38-42、2015
- 下地明友：〈病い〉のスペクトルー精神医学と人類学の遭遇。金剛出版、2015
- 下地明友：多文化・移住化時代におけるメンタルクリニックのすがた、〈外来精神科診療シリーズ〉『メンタルクリニックのこれからを考える』、中山書店、2018

翻訳

- アラン・ヤング著、中井久夫・下地明友・内藤あかね・大月康義・辰野剛訳『PTSDの医療人類学』、みすず書房、470p、2001
- バイロン・J・グッド著、江口重幸・下地明友・三協康生・五木田紳・大月康義訳『医療・合理性・経験ーバイロン・グッドの医療人類学講義』誠信書房、411p、2001
- アーサー・クライマン著、江口重幸・下地明友、松澤和正・堀有伸・五木田紳共訳『精神医学を再考するー疾患カテゴリーから個人的経験へ』みすず書房、424p、2012
- エドワード・ショーター著、江口重幸・大前晋監訳、下地明友、他訳『精神医学歴史事典』みすず書房、480p、2016
- イアン・ハッキング著、江口重幸・大前晋・下地明友・三協康生・ヤニス・ガイタニディス共訳『マッド・トラベラーズーある精神疾患の誕生と消滅』岩波書店、360p、2017

口演・シンポジウム・特別講演

- 「コーディネーター：DVの被害、加害をなくすためのシンポジウム」被害者支援、加害者プログラム、熊本市総合女性センター、2009.2.22
- 「メルロ・ポンティ生誕100年：日本の精神医学とメルロ・ポンティ」第16回多文化間精神医学会学術大会、川崎市産業振興会館、2009.3.27
- 「コーディネーター：高次脳機能障害を考える」高次脳機能障害：三池高次脳連絡会議、大牟田市文化会館小ホール、2009.5.16
- 「水俣病被害の現状と再評価に関する健康・社会問題の調査研究」「DOがくもん」XVII特別セミナー：水俣の未来へー水俣学研究5年の歩み・シンポジウム、熊本学園大学、2009.11.21
- 「統合失調症の歴史的変遷とその社会的・文化的コンテクスト（シンポジウム：統合失調症は減少しているのか）」第82回熊本精神神経学会、ニュースカイホテル、2010.7.10

- 「ソーシャル・サファリング (social suffering) : 熊本県と社会精神医学の系譜－「構造の裂け目」と「存在の現れ」－覚醒剤中毒、CO 中毒、水俣病、カネミ油症、慢性砒素中毒そして・・・「終わっていない」」第32回日本社会精神医学会総会（特別講演）、KKR ホテル熊本、2013.3.8
- 「「あいだ」・文化・生命：木村敏の「謎」を読む」第20回多文化間精神医学会学術総会（シンポジウム 4：日本の代表的文化精神医学者は「文化」を取り込むことで何を言おうとしたのか）、栃木県総合文化センター、2013.6.14
- 「臨床におけるクロノトポスと『ゼロポイント』－文明・文化・物語・反物語－」「宗教と社会」学会第21回学術大会、皇學館大学、伊勢市、2013.6.16
- 「“記号と物語・徴候知・リズム”－精神病理学の現場から産業・技術・教育を再考する－」日本産業技術教育学会第57回全国大会、熊本大学教育学部、2014.8.24
- A living Testimony : How illness stories are not only *about* the body but *of* and *through* the body. Minamata disease or methyl mercury poisoning gets many aspects and many levels. Forum on Minamata Disease and Health Effects, Grassy Narrows, Canada、2014.8.27
- 「『創造』から「病い」をみる：たとえば夏目漱石と病い」熊本県交流館パレア会議室、2015.9.1
- 「クロノトポスのダイアロジズム」昼下りの文化精神医学、大正大学、2016.11.26
- 『カナダ先住民居留地の健康被害調査』水俣病公式確認60年国際シンポジウム「カナダ先住民の水俣病と水銀汚染」、熊本学園大学14号館1411教室、2017.2.18
- 上野千鶴子・信田さよ子を招いての講演と対談：「家族の光と闇!! 目から鱗の家族論」、ウィメンズ・カウンセリングルーム熊本創立20周年記念事業、熊本学園大学高橋守雄記念ホール、2017.3.12
- 「不思議な場所としての多文化間精神医学」第24回多文化間精神医学会学術大会、明治学院大学白金キャンパス、2017.11.12
- 「医療人類学から見た多文化共生社会：The open（開かれ）と The between（あいだ）－heteroglossia（異言語混淆）－未来の精神医学：小さな声は（かき消される声）は止むことがない」第37回日本社会精神医学会、京都テルサ、2018.3.1
- 「最終講義：未来を星座のように幻視すること」熊本学園大学14号館1421教室、2018.3.17
- 「災害とこころのケア ～熊本地震の経験から～」災害時こころのケア研修会、徳島県精神保健福祉センター、2018.3.20
- 「文化人類学の視点から：状況を生き延びること、生きる知恵と力」こころの病の支援講座、熊本学園大学14号館1411教室、2018.3.24
- 「大学生の飲酒事故防止の方法」熊本学園大学12号館、2018.4.25

講演

- 「ナラティブ・セラピーの理論と実際－その以前を巡って」家庭裁判所、2006.5.19
- 「いきがいの人類学」NTT マーケティングアクト中九州研修会、熊本・東急インホテル、2006.6.17
- 「精神医学と人類学との対話－デプレッションとソーシャル・サファリングを巡って」熊本精神科病院、日航ホテル、2006.10.28
- 「脳と水銀：水俣病の〈現在〉をめぐって：物語、反物語」人工頭脳工学シンポジウム、佐賀大学、2007.3.4
- 「最近の飲酒事故について：アルコールをめぐる「明暗」」熊本学園大学・新入生講演、熊本学園大学、2007.7.4
- 「水俣病の疾病概念の再考：Genograms、Ecological および Geopolitical な視点」水俣学研究センター第15回定例研究会、熊本学園大学、2007.7.18

- 「認知症のスペクタクル：老年学から時間探検学へ：向老探検学の旅」第5回熊本県鍼灸マッサージ師大会、熊本市国際交流会館、2007.8.11
- 「『多元的医療体系』：医療のクレオール化：臨床の『詩学』－近代化と『非』近代医療の『あいだ』の『ホット・スポット』－」社会福祉研究所2007年度第4回研究会公開講演会、熊本学園大学、2007.11.17
- 「自然環境と生命 水俣病との関わりから」甲南女子高・水俣に聴くプログラム、水俣市公民館、2007.11.18
- 「宮古島シャーマニズム複合と精神医療」アジア理解講座、ジャパンファウンデーション国際会議場、2008.2.26
- 「Ellen Corin、及び島蘭進に対する指定討論：宗教と臨床リアリティ」慶應義塾大学グローバルCOEプログラム：宗教と医療に見る狂気の文化的解釈－医療人類学、宗教学、精神医学の対話、慶應義塾大学、2008.3.1
- 「中高年のうつ・自殺の実態と自殺予防」中高年のうつ・自殺予防を目的としたグループ・コンサルテーション事業、熊本大学、2008.6.7
- 「ストレス社会とうつ、職場およびうつとのつきあい」中高年のうつ・自殺予防を目的としたグループ・コンサルテーション事業、熊本大学、2008.8.30
- 「こころとからだの健康アンケート集計結果報告」熊本県地域自殺対策推進事業・あさぎり町うつ予防事業、2008.9.21
- 「病いのクロノトポス：制度と身体：あるいは構造と言葉、身体的行為：複数性、徴候、生の技法、物語」第14回岩手メンタル研究会、盛岡グランドホテル、2008.11.7
- 「医療人類学入門」熊大精神科医局セミナー、熊本大学精神科、2008.11.17
- 「PTSDからの回復(1)暴力について」ウイメンズセミナー、熊本市立図書館、2008.11.29
- 「外傷性神経症からの回復(2)の1」ウイメンズセミナー、熊本市立図書館、2008.2.7
- 「外傷性神経症からの回復(2)の2」ウイメンズセミナー、熊本市立図書館、2008.2.7
- 「高齢者の理解と支援のために：老いのスペクタクル：病老探検学」「高齢社会・どう変わる・どう生きる」、熊本大学、2009.5.25
- 「心の病と文化」精神保健家族教室、熊本市民活動支援センター・あいぽーと、2009.5.25
- 「大学生の飲酒事故について：アルコール・メンタルヘルスリテラシー：“飲酒”と人類」熊本学園大学・学生自治会アルコール事故防止委員会、熊本学園大学、2009.7.8
- 「コーディネーター：DVのない社会をめざして」被害者支援、加害者プログラム、熊本市総合女性センター、2009.8.23
- 「職場におけるメンタルヘルス」熊本学園大学研修会、熊本学園大学、2009.9.7
- 「命とともに：世界の不思議とゆたかさのなかで」延岡市市民福祉セミナー、カルチャープラザのべおか、2009.10.27
- 「女性の心の健康～眠れない・疲れやすい・元気がでない、そんなあなたへ～こころ・身体・集合・社会・時間」熊本市制120周年記念：くまもと男女共生フォーラム2009ワークショップ、熊本市総合女性センター、2009.11.15
- 「自然環境と生命」甲南女子高・水俣に聴くプログラム、水俣市公民館、2009.11.18
- 「PTSDからの回復に向けて：語りの中にある指標Ⅰ」第5回フェミニスト心理カウンセラー養成講座中級講座、熊本学園大学、2009.11.29
- 「PTSDからの回復に向けて：語りの中にある指標Ⅱ」第5回フェミニスト心理カウンセラー養成講座、熊本学園大学、2010.1.10
- 「介護従事者のメンタルヘルスケア」介護研究会、介護老人保健施設平成唯仁館、2010.3.8

- 「境界のエチカ：意識、身体、集合体、クロノトポス」熊本県詩人の会、熊本市市民会館、2010.5.23
- 「パーソナリティ障害および心の病いについて～その理解と対応」生活保護担当ケースワーカー研修会、熊本県庁、2010.7.13
- 「生活保護受給者との対話：自立支援と生活保護：行政指導・経済・生活」生活保護担当者セミナー、熊本県庁、2010.7.13
- 「ストレスとの上手な付き合い方：こころ・からだ・社会」くまもと県民カレッジ連携講座、熊本県民交流館バレー、2010.8.18
- 「わが国の自殺関連事象をめぐって」生と死を考える会、熊本市国際交流会館、2010.9.18
- 「精神科医療場面における制度分析とエスノグラフィック的思考」熊本大学医学部精神科セミナー、熊本大学、2010.11.15
- 「対談 性差を大事に、越えよう男女の性役割」熊本市男女共同参画センター、2010.11.28
- 「上天草市こころとからだの健康に関する調査の結果報告」上天草市自殺対策事業および保健師・栄養士等研修会、上天草市松島保健センター、2010.12.13
- 「トランスカルチュラル・ソーシャル・スタディーズ」熊本、多文化共生をめざして、熊本市国際交流会館、2011.2.25
- 「コーディネーター：高次脳機能障害を考える」第4回高次脳機能障害シンポジウム、大牟田市文化会館、2011.5.22
- 「カタストロフィ、イーハトヴ、「新しい天使」（クレーの絵）：不可視の存在」と「リアルな身体」」岩手医科大学精神科講演、岩手医科大学精神科、2011.6.25
- 「『精神医学』からしっかり捉える」精神障害者支援講座、熊本学園大学、2011.10.6
- 「自殺予防、プライマリケア、うつ病診療、現代社会、「自死」」熊本市医師会生涯教育、リフレッシュ勉強会例会、熊本市医師会館、2011.11.29
- 「民生委員・児童委員：地域における役割」上天草市、松島総合センター、2012.2.29
- 「『麻薬』と人間：麻薬の光と影：薬毒同源」セーフティー・ライフ・セミナー、熊本学園大学、2012.4.6
- 「福祉と環境とを再考するもう一つの探求方法（生の技法）をもとめて」福祉環境学フォーラム：いのちをつなぐ、東北、熊本ー3.11以降の福祉と環境を考える、熊本学園大学、2012.6.3
- 「精神科医が行う対人援助：文化人類学から人を見る」精神障害者支援講座、熊本学園大学、2012.10.23
- 「文化・精神・医療・人類学：個人・社会、こころとからだの病い」精神障害者支援講座、熊本学園大学、2012.10.23
- 「胎児からのメッセージ」甲南女子高・水俣に聴くプログラム、水俣学現地研究センター、2012.10.31
- 「種々の精神疾患とその支援方法について：生活／社会／精神疾患・障害：公助／共助／近助／自助」生活保護担当ケースワーカー研修会、熊本県庁、2012.12.4
- 「トラウマとレジリエンスのスペクタクルー歴史・文化・医療・物語・anti-narrative」第25回九州・沖縄精神医学セミナー、久留米大学、2013.2.2
- ストレスをめぐる心身と社会のリズムの交叉に関する講演で、ストレス対策を武芸長というかたちで講演、「ひとよし花まる学園大学」：ストレス武芸長：こころと身体の社会のリズム、中小企業大学人吉校、2013.2.23
- 「精神科の基礎知識」そお生きいき健康センター、曾於市、2014.12.6
- 「なぜ暴力なのか；出来事・事件：女性と子ども」そお生きいき健康センター、曾於市、2015.12.19
- 「自殺について再考する」そお生きいき健康センター、曾於市、2015.12.19
- 「精神障害の現状と要否判定に係る留意点等：多次元的課題としての要否判定の背景構造」熊本県生活保護に関する研修会、熊本市医師会館、2015.1.16

- 「精神疾患の基礎と精神症者への対応」熊本県コロニー協会訓練棟、2015.7.21
- 「文化人類学から支援を考える」精神障害者支援講座、熊本学園大学、2016.3.17
- 「子どもと教職員の心のケアー災害文化多元論の視点から」第63次熊本県高等学校教職員組合夏の教育研究集会、国際交流会館、2016.8.20
- 「災害における女性支援」人吉市、第2回熊本県婦人相談員研修会、2016.10.13
- 「災害が襲うとき」第47回精神保健福祉普及大会、宜野湾市民会館大ホール、2016.11.2
- 「現代精神医学の行方ー精神医学を再考する」熊本大学精神科セミナー、2017.1.16
- 「臨床人類学ー医学と人類学の出会い」医療と社会、熊本大学医学部総研棟、2017.6.21
- 「ケアの場は星座のように」水俣市民会館、2017.10.24
- 「病いとの関わりをめぐる：認知症、アルコール依存症、うつ病ーケアの場は星座のごとくー」熊本学園大学水俣学研究センター第14期公開講座、水俣市公民館、2017.10.24
- 「文化人類学から支援を再考する」こころの病支援講座、熊本学園大学、2018.3.24
- 「“自己の消滅”をいろいろとイメージする：生と死の人類学」熊本・生と死を考える会、ウエルパルクまもと、2018.4.21